

図書館便り

伝えたいことがある

誰かに何かを伝えたいとき、みなさんはどうするでしょうか。会って話す、電話をする、SNSで発信する…スピードが重視されがちな現代ですが、視点を変えると一味違う伝え方も見つけられそうです。今月は「伝える」をテーマに本を紹介します。

『朔と新』

いとうみく/著 講談社(913)

バスの事故が原因で失明した兄の朔と、その責任を感じて陸上をやめてしまった弟の新が、ブラインドマラソンに挑戦する物語です。二人の気持ちがすれ違いながらも、お互いのことを考えている…。走ることを通じて兄弟が理解し合う姿が丁寧に描かれています。



『話すチカラ』

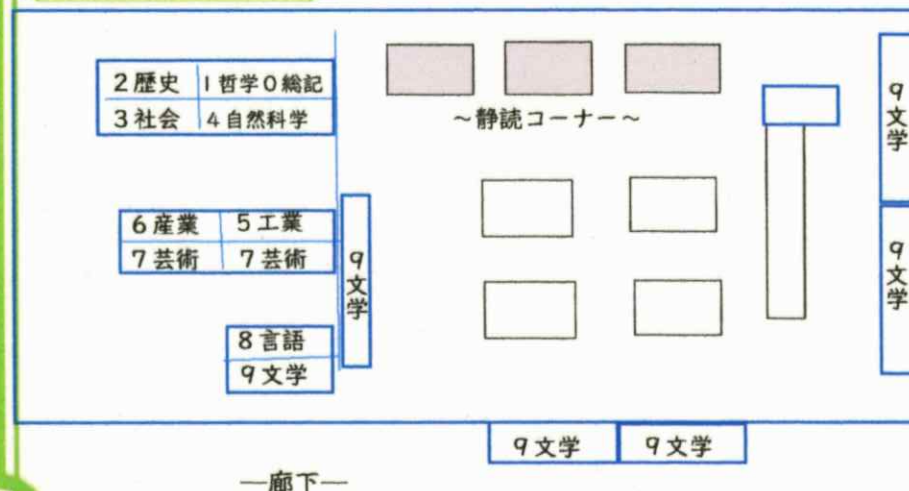
齋藤孝、安住紳一郎/著 ダイアモンド社(809)

相手に自分の意見を率直に伝えたいとき、どんなことに気をつけたらいいのでしょうか。この本には、「わかりやすく話す」「人間関係がうまくいく話し方」など、話すときのちょっとしたコツがわかりやすく書かれています。大学の師弟関係である著者二人の、日本語への熱い思いも語られています。



仮設校舎へ移転したため、図書館内の配置が換わりしました。慣れるまで、使いづらくかもしれませんが、居心地の良い図書館になるように、工夫して使っていきましょう！

図書館マップ



『ヒカリノオト』

河邊徹/著 ポプラ社(913)

売れなくなったシンガーソングライター染谷達也の最後の曲が、様々な人の心に届く連作短編集です。レコード会社の若手社員、カメラマン、合唱コンクールでアレンジを任せられた女子高生、リサイクルショップの男性など、時と場所を越えて一つの楽曲が人生の転機に寄り添います。著者は、2023年に解散したロックバンドWEAVERのドラマーです。



2025.9

読書のとびら

分類のはなし

200~299
2 歴史・地理
世界史 日本史
伝記 地理

2類には歴史、伝記、地理に関する本が分類されています。入門書から専門書、学習漫画、地域資料など幅広い資料があります。

校外学習・修学旅行に関する本も2類に多く含まれています。

『東大教授がおしえる やばい日本史』

本郷和人/著、和田ラヂヲ/イラスト、横山了一/マンガ、
滝乃みわ/執筆 ダイヤモンド社(281)

歴史上の有名人も、みんな欠点をもった普通の人間なのだ、ということがよくわかる一冊です。凄くてやばい偉人たちの一面を知ること、いつのまにか歴史を身近に感じられるようになる楽しい歴史入門書です。



『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷はるか/著 河出書房新社(292)

父親の転勤でインドに引っ越した女子高生がインドでの生活の中で肌で感じたことを率直に綴っています。文化や習慣の違いから人権、貧困問題まで深く洞察していて、いろいろなことを考えさせられます。



戦争に関する本

2025年は、第2次世界大戦の終結から80年という節目の年です。
戦争にまつわる本を紹介します。

『君と考える戦争のない未来』

池上彰/著 理論社(319)

戦争とは何か、なぜ起きるのか…。争いの歴史や原因を丁寧に解説しています。2016年の広島平和記念公園におけるバラク・オバマ元アメリカ大統領の演説も資料として掲載されています。

『この世界の片隅に(上・中・下巻)』

こうの史代/著 双葉社(726)

戦時下の広島・呉に嫁いだのんびりやのすずの何気ない日常を描いた物語です。そんなすずにも、いつしか戦争の暗い影が…。

『平和のバトン』

広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』

弓狩匡純/著 くもん出版(319)

原爆を知らない高校生たちが、被爆者の話を聞き、想像力と描写力によって油絵に再現するプロジェクトのノンフィクション。

『ある晴れた夏の朝』

小手鞠るい/著 偕成社(913)

原爆投下は本当に必要だったのか…。アメリカのそれぞれルーツの異なる高校生8人が原爆投下の是非について公開討論をします。戦争の持つ様々な側面から平和というものを考えるきっかけになる物語です。

『野ばら』

小川未明/著 淵/絵 汐文社(E)

大国の老兵と親しくなった小国の青年兵。やがて両国は戦争になり…。小川未明の童話に淵がイラストをつけました。

『夕風の街 桜の国』

こうの史代/著 双葉社(726)

被爆者とその家族の苦しみや心のうちを細やかに描いているコミックです。

